

歴史的建造物コラム

Vol.1 ～謎の3つのAとライト風意匠／名古屋市役所本庁舎正面～ 名古屋市立大学名誉教授 瀬口 哲夫

名古屋市役所本庁舎（1933年竣工）は、名古屋城内三の丸にあり、城内の風致に合わせた「日本趣味を基調とした」意匠が特徴とされる。外観を特徴づけるのは、高さ53.5メートルの塔屋で、宝形屋根の頂に四方睨みの鯨を置く。塔屋の二重屋根の垂木先に24個の鬼面がある。災いを追い払う効果があるというので、戦争時に、被災しなかったのはこのためだろうか。

正面壁面に4本の列柱を取り付けるが、その柱頭は花籠のようになっている。これをよく見ると、アールヌーボー風の装飾彫刻の中に、松葉（アルファベットのA文字にも見える。）が3つつ見える。名古屋市庁舎外観の実設計の担当者は、川松安正といわれている。彼の姓の川を横にすると三なので、川松になる。また、安正の音読みは、アンセイ（Ansei）。設計者としての自分の名前を織り込んだのか。

2階から5階までの正面の窓廻りなどの意匠は、ギザギサ模様で、ライト風である。ところが、5階窓の上の模様の中に、尾を上げた2匹の鯨がそれぞれ潜む。1階玄関先の車寄せの柱の装飾は、加工した石を積み上げたもので、これもライト風で、重厚感がある。

名古屋市役所本庁舎のデザインは、実に興味深いものとなっている。

